

第2学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和6年5月23日（木） 第2校時
場所：2年2組教室

授業テーマ	登場人物の役割演技を通して、それぞれの立場の気持ちを伝え合うことにより、親切にしようという心情を育てる授業
-------	---

1 主題名 あたたかい ころろ （ B-6 親切 思いやり ） 「とくべつなたからもの」

2 主題設定の理由

よりよい人間関係を築いて行くためには、温かい心で相手に接する事が大切である。困っている人を見たときに、とっさに自分にできることはないかと考えて手を指しの述べようとする気持ちが温かい心である。幼い人や友達に温かい心をもって接することによって、相手への親切な行いが生まれると同時に、自分が人のためになったという喜びが生まれる。それがこれからも思いやりのある行動をしようとする意欲を高めるのである。相手の立場に立って考え行動することは、自己中心的な態度を改めたり、他者との人間関係を深めたりすることにもつながり、人間性をより豊かにしていく。

本学級の児童は、勉強が分からず困っている友達には教えてあげたり、休んでいる友達の当番の仕事を手伝ってあげたりと、何かしら助けてあげたい、力になりたいという気持ちを持って接していることが多い。しかし、相手が本当にしてほしいことと考えているかという、自己満足で終わっていることもある。そこで、相手の気持ちを考え、よい行いを行ったときに得られる気持ちのよさや、親切な行いがもたらす喜びや温かい心にふれさせることが大切である。

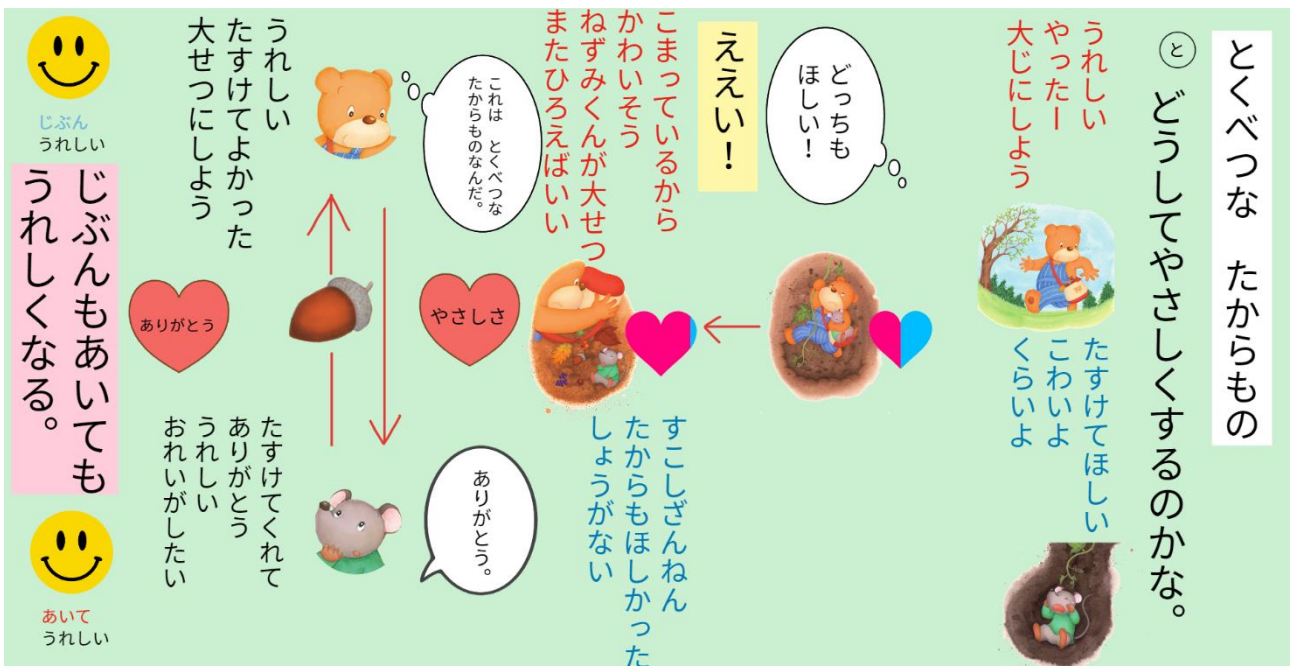
本教材は、かばんの中を宝物でいっぱいにしたくまが、穴に落ちたねずみの子に出会い、自分にできることを一生懸命考え、宝物を捨てねずみくんを助けるという話である。宝物を捨てようかどうかと迷いながらも、困っているねずみの子を助けるくまの気持ちから、相手の気持ちを考えて親切にする大切さを感じ取ることができる。また、かばんの一つだけ残っていたどんぐりを握りしめて「ありがとう」という言葉をねずみに言われ、「これはとくべつなたからもの」と喜ぶくまの姿に、親切でつながる温かい関係、親切にした後の心地よさを感じ取ることができる教材である。

指導にあたっては、帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表したり、ロイロノートの共有ノートに「親切にしてもらったこと」を記入したりして、意識付けを図っておく。教材を前半と後半に分け、前半ではねずみの子を助けたいと思いつつも、一生懸命に集めた宝物を捨てたくないという気持ちの葛藤を話し合わせ、親切の意味について考えさせる。後半は、役割演技を通して考えさせることにより、くまの気持ちに共感させる。そして、相手を思っていたことは、相手にも伝わり、自分も温かい気持ちになることを実感させたい。終末では、今までの自分の体験を振り返りに書いて発表することにより、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、価値の意識の継続と自己肯定感を高めたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表したり、ロイロノートの共有ノート（「キラキラの森」）にありがとうの手紙を書いたりして、意識付けを図っておく。
- (2) 本時……教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。「キラキラさん」と「キラキラの森」に継続して取り組む。

4 板書計画



5 主題のねらい

身近な人に対して温かい心をもって親切にすることのよさが分かり、親切にしようとする。

6 授業テーマに迫るための手立て

- (1) 温かい気持ちになることを実感させるための動作化や役割演技の工夫
- (2) 価値の深まりや意欲の継続、自己肯定感を高めるための「振り返り」の場の設定

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	1. やさしい人について話し合い、本時の問いを知る。 ㊟ どうしてやさしくするのか。	5	○ やさしい人が損してしまう場面の写真を提示し、それでもやさしくできた理由を考えさせ、本時の問いにつなげる。
見 つ め る	2. 資料「とくべつなたからもの」を読み、迷うくまの気持ちを話し合う。(前半) (1) 穴に落ちたねずみの気持ちを考える。 ・助けてほしい。 ・くらいよ。 ・こわいよ。 (2) くまが「えい!!」と思いついてかばんをさかさまにふったのは、なぜか考える。 ・助けなきゃ。 ・ねずみくんのほうが大切。 ・宝物はまた拾えばいい。	25 (10)	○ 教材文の内容を児童が把握しやすくなるように読みの視点を与え、先行オーガナイザー法を用いる。 ○ 教材文の内容を把握しやすくなるように、ロイロノートを使って紙芝居形式で物語を読む。 ○ 困っているねずみの子を助けなければという思いと宝物も欲しいというくまの心の葛藤に気付かせる。
伝 え る	㊟ くまが「えいっ!!」と思いついてかばんをさかさまにふったのは、なぜかな。 3. ねずみの子の台詞の後に、どんな会話をするか考える。(後半) ・助けてよかった。 ・親切にしてよかった。 ・くまくん優しい。 ・ありがとう。	(15)	◆ くまが心の中で感じた葛藤に気づき、困っている人を助けようとする気持ちについて考えている。(発言・ワークシート) ○ 動作化することで、かばんをさかさまにした時のくまの気持ちを想像しやすくする。 ○ ワークシートでくまの葛藤や気持ちの変化を可視化させる ○ 役割演技をして、場面の状況や登場人物の気持ちを想像しやすいようにする。 ○ どんぐりをにぎったねずみの子の感謝の気持ちを押さえることで、くまの温かい心に気付かせる。 ※ 役割演技をすることで、相手を思っていたことは、相手にも伝わり優しい気持ちになることや、そのことで自分も温かい気持ちになることを実感させる。(手立て1)
振 り 返 る	4. 自分の生活を振り返る。 (1) 共有ノートの「キラキラの森」を見て、自分たちの生活にも親切があふれていることに気付く。 ・分からないところを教えてくれてありがとう。 (2) ワークシートに本時の振り返りをする。 ・これからも優しくしよう。 ・困っている人がいたら助けよう。	15	○ 自分たちのまわりにも困ったら助けてくれる友達がいることに気付かせる。 ○ 今までにしてもらった親切やこれからしたい親切を発表させる。 ※ 「キラキラの森」を読んだり見たりして、自分も親切な行いをしていることやそれによって友達もうれしいと感じていることに気付かせ、自己肯定感を高める。(手立て2) ◆ 身近な人に対して温かい心をもって親切にすることのよさが分かり、親切にしようとする気持ちをもっている。(発言・ワークシート)